

子ども食堂を作ろう！ふくし100人会議 (2017/01/21)

ツイート

子どもが安心して食事を摂れる場所「子ども食堂」を小樽市内に作ろうと、1月21日(土)13:30から、小樽市総合福祉センター(富岡)4階研修室で、「ふくし100人会議inおたる」が開かれ、市職員・民生委員・福祉関係者・看護師など約70人が参加した。

小樽市生活サポートセンター「たるさぼ」・小樽ソーシャルワーカー連絡協議会「そある」が主催し、小樽わくわく共育ネットワークが共催した。



1人ではできないことも100人集まればできるかもが、ふくし100人会議のコンセプト。今回の特別編を入れて4回目の開催となる。

札幌市内では30ヶ所の子ども食堂があり、各地で子ども食堂が開かれる中、小樽では昨年6月に、小樽商科大学の本気プロの学生(白戸敬登代表)が、初めての子ども食堂を開き、子ども16名を含む40名が参加した。

その後、本気プロの履修が終わった後も継続され、同大学生5名と子ども食堂スタッフ8名による、フードバンク活動と子ども食堂の運営を活動内容とした「CREAM」を立ち上げた。小樽ポツケ(緑1)を会場に2度の子ども食堂を実施している。

同会議の内容は、障害者・児童相談支援事業所相談支援専門員の片山寛信さんが、札幌で2つの子ども食堂に関わる楽しさを語り、白戸さんが子ども食堂を市内に作りたい強い思いを語った。その後、参加者全員でグループに分かれ、ワールドカフェを開いた。

片山さんは、自ら関わる豊平区と西区にある週1で開催中の子ども食堂の活動の様子を報告し、子どもがここにいて良いと感じ、参加してなくても居場所があることを子どもが感じられるよう意識しているという。



白戸さんは、フードバンク活動や子ども食堂のこれまでの活動について話した。6月に実施した子ども食堂では、フードバンクで集まった食材を活用して食事を提供し、大勢で食卓を囲むことにより、楽しく温かい空間を創造し、悩みを打ち解けあえる居場所となる。子ども食堂の活動が定着するよう、より多くの企業や個人・地域と繋がりを持つことが今後の目標。

北九州の事例から、子ども食堂が抱える問題点について、運営者の確保や本当に必要な人に届かないなどの現状を伝えた。

ワールドカフェでは、4~6名ずつグループに分かれ、「子ども食堂をつくらう」をテーマに2時間ほど話し合った。



それぞれのスキルを持った人が集まり、自分が描く子ども食堂を語った。衛生面やアレルギーを持つ子、資金や人材など、数々の問題点が上げられた。

また、全国の児童相談所における虐待の相談件数は、平成27年には10万件を超え、道内では3,900件の相談。児童養護施設の約60%が被虐待児童で、親が障害を有していたり貧困等の多重逆境を抱えている現状を伝え、退所者が求める居場所作りなど、いろいろな子ども食堂の提案を要望した。

地域で開かれた場合、子ども食堂イコール貧困を連想させ、入り辛いイメージを指摘。もっとイメージを改善する必要がある。貧困に関わらず、参加したい人が集まる場所とし、子ども達と一緒に調理することで、食育に繋げ、社会性や協調性を養う。商大生による学習支援なども行うなど、様々な意見が集まった。

市内60代の男性は、「子ども食堂を持続可能にするために、今後、力を貸したいと思って参加した」と話した。

白戸さん達は、バレンタインデーの2月14日(火)から、毎週火曜日に「たるっこ食堂」を小樽ポツケで開催。学校が終わる15:00から集まり、一緒に宿題をして、17:30頃にみんなで食事。子ども達と接する班と片付け班に分かれ、19:00頃には子ども達を家に帰していく計画だ。また、それぞれの団体が独立しているため、実行委員会を作る方向を示した。

子ども食堂の開設について話し合う市民ら



資金集め、周知、廃棄食料の活用…

「子ども食堂」課題探る

小樽で「ふくし会議」

70人語り合おう

【小樽】市民がアイデアを出し合い福祉の課題解決策を探る「ふくし100人会議inおたる」が21日、小樽市総合福祉センターで開かれた。貧困や孤食に苦しむ子などに食事を提供する「子ども食堂」開設がテーマで約70人が参加した。同会議は、市生活サポートセンター主催で昨夏以降、子どもの居場所などをテーマに3回開き、今回は

特別編。市内で昨年、子ども食堂を開いた樽商大2年の白戸敬登さん(20)らが、資金集めや子どもへの周知方法の難しさなど課題を語った。この後、10グループに分かれ討論。「廃棄する食料の提供を企業に掛け合うべきだ」などの意見が上がった。討論内容の発表では「子ども食堂から貧困のイメージを受け、通いつらい子も

いるのでは。地域の交流の場としても周知するべきだ」「市内に1カ所だと離れた地域の子は通えない。

複数箇所で開くべきだ」などの声が紹介された。(長峯亮)